

令和3年 市民が共におこすまちづくり事業報告書

団体名	特定非営利活動法人 すくらむハート
事業名	僕たち私たちの考えること「小さな声を聴いてみよう」
事業概要	<p>コロナ禍により、社会的な分断が様々な分野にて起きています。「コロナより怖いのは人間」という言葉があります。個人の心の持ちようが社会全体に影響を与えていきます。人と人との分断が進む中で、社会的な弱者であるといわれている障がい者との交流を通じて、これからの必要なキーワードを模索しました。</p> <p>ハッピースマイルみんなでわっしょい 日 時：令和3年10月23日（土） 10:00～16:00 講 師：MAYAMAXX 場 所：みなと交流センター みなとホール 参加者：約60人 ボランティアスタッフ 20人 すくらむハート、今治市内の障がい者施設の方、 松山の障がい者団体、市内の小学生親子 制作物：懸垂幕・からだで描く絵・立体画材</p>



ぼんたハウス訪問 令和3年8月28日

当初予定していた日時に交流事業が困難となったが、MAYAMAXXさんがすくらむハートの施設ぼんたハウスを訪問いただき、利用者との交流を深めた。



ハッピースマイルみんなでわっしょい 令和3年10月23日

懸垂幕

参加者みんなで笑顔を描く



私の根本的な考え方として「子どもだろうが大人だろうが障害があろうがなろうが同じ」という風な気持ちで生きている。同じであるという視点に立っていることが大事。病気やけん大変とか、病気やけんかわいそうとかじゃなくてね。元気やけん大変とか、元気やけんかわいそうって面もあるじゃない。

懸垂幕展示 今治市役所 令和3年11月4日～11月15日



からだで描く絵



子どもと障がいのある方は「自分を表現しない」ってのが同じ。大人っていうのはね「自分ってこういうの描けるし」とか自分のエゴみたいなものを表現してしまう。だけど子どもも障がいのある方もそれがない。「自分を良く見せよう」という感じがしない。ただ一生懸命やっているという姿は信じていいのよ。「それが(姿が)なんなのか」というのじゃなくてね。 MAYAMAXX

からだで描く絵 展示 ギャラリー呑吐桶 【伊予銀行今治支店】令和3年11月1日～11月26日



ハッピースマイル みんなであっしょい

いそんなさべつがえに表にみだしたわ
サステナブルもえにうごき始めたわ
次の世代の子どもたちには
なにそできなない そうしあけなない
子どもたちには、はじけていんだよ

MAYA MAXX



主催／特定非営利活動法人 すくらむハート 後援／今治市

立体画材

今回のイベントは、障害があってもなくても一緒に楽しむこと。そして、参加したメンバー全員が白い大きなスケッチに何か痕跡を残していこうということこそが今回最大の目的ということで、各々がヘルパーさんの力を借りながら自身の手や口を最大限に使い、自らの痕跡を残してきました。わたしも絵を描くのなんか何年(何十年かも)振りだろうという世界。何も考えずに、本能の赴くがまま(笑)筆を握り、描き進めていきました♪最後には、筆を捨て！手の指にたくさんの色を塗りまくり、皆さんのサポートを得ながら、虹？っぽいものを描きました!!! その後、わたしの左手は絵の具の色により、血色の悪い感じになりましたがw 子供に戻った感覚で、とても楽しい時間を過ごせました！周りと一緒に楽しみながら、全員で同じものを作る達成感やワクワク感は、きっと『またやりたい！』という気持ちに繋がると思います。少なくともわたしは、そうです(笑) 星空CILまめ(めぐ)



素晴らしい人たちだった。何が素晴らしいかといったら、「明るく、笑っちゃえと素直」。もちろんきれいごとだけではないけど、暗くなってもしょうがない。健全な方でもしょうがないことはある。同じよ。ホントいろんなことがあって心が折れることもあるよ。そして何よりあの子らには「ユーモア」があった「ユーモア」を持つというのは現状を客観的にとらえてそこに自分を同化させない。自分を自分に同情しないということができて初めて「ユーモア」が生まれる MAYAMAXX

みんなが笑える社会を目指して



MAYAMAXXインタビュー
 この日感じたことを講師の
 MAYAMAXXさんに伺いました



今治CATニュース



愛媛新聞 10月29日から



MAYA MAXXさん(左から5人目)からアトイスを貸し自由に絵を描く参加者

お絵描き 育む絆

今治・画家MAYA MAXXさんを講師に迎え

障害者や協力して動物など次々

今治市出身の画家MAYA MAXX(マヤマックス)さんを講師に招き、障害者や子どもたちが協力して絵を描くイベントがこのほど、同市東町一丁目市みな交流センター「はばけり」であり、個性的で愛らしい動物などを描いた作品が完成した。

イベントは28日に開いて作った絵は1人で「楽しかった」と話し、参加者約30人が描くよりも迫力があって、3班に分かれて制作に挑んだ。手や足の裏に絵の具を付け、縦横・8枚の防炎シートに足踏みをしたり手形を押しつけて着色。絵の具が乾くと、筆で動物や虫、リボンなどを次々に描いた。

MAYAさんがデザインしたマのキャラクター「ハッピースマイル」をたぐさん描いた壁紙も制作した。別宮小6年の吉武愛蓮さんが「はばけり」で、

障壁制作を通して障害福祉への理解を深めてもらうこと、障害者の就労支援などに取組む同市大西町組原のNPO法人すくらむ(同市朝倉上で展不すハト(渡部雄 朗理)る予定。(藤村成徳

懸筆は11月4日から市公盆(同市別宮町一丁目)前に掲示

絵画制作を通して障害福祉への理解を深めてもらうこと、障害者の就労支援などに取組む同市大西町組原のNPO法人すくらむ(同市朝倉上で展不すハト(渡部雄 朗理)る予定。(藤村成徳

MAYA MAXXさんがデザインしたキャラクターを懸垂幕に描く参加者